

令和7年度 第3回 さいたま市レベル4モビリティ・地域コミッティ 議事要旨

■日時：令和8年1月27日（火）10時00分～

■場所：大宮区役所 6階 601・602会議室（対面およびウェブ開催により実施）

■出欠：組成員出席者13名（うち代理出席5名）

■出席者名簿（敬称略）

	氏名	所属団体等	備考
1	代田 智之	さいたま市 都市局 交通政策部長	
2	秋月 浩希	国土交通省 関東運輸局 自動車技術安全部 技術課長	WEB
3	富吉 正幸 (代理：森山雄平)	国土交通省 関東地方整備局 大宮国道事務所 計画課長	代理 WEB
4	澤原宜 謙 (代理：大門卓登)	経済産業省 関東経済産業局 産業部 製造産業課 航空宇宙・自動車産業室長	代理
5	久保田 豊 (代理：菅沼邦康)	埼玉県警察本部 交通部 交通総務課長	代理 書面
6	鈴木 健史	国際興業株式会社 運輸事業部 担当部長	
7	青柳 雅人 (代理：夏原由雄)	西武バス株式会社 企画部長	代理
8	川原 正典	総務省 関東総合通信局 情報通信部 情報通信振興課長	
9	吉井 洋紀 (代理：山形貴子)	埼玉県 企画財政部 交通政策課長	代理 WEB
10	岡部 定勝	A-Drive 株式会社 代表取締役社長	
11	佐藤 直人	アイサンテクノロジー株式会社 取締役	
12	小嶋 文	国立大学法人埼玉大学大学院 理工学研究科 准教授	WEB
13	須ヶ間 淳	国立大学法人埼玉大学大学院 理工学研究科 助教	

■次第

1. 開 会
2. 議事事項
 - ・実証実験の概要
 - ・検証結果
 - ・自動運転レベル4の実装に向けた課題と今後の予定
4. 閉 会

■配布資料

- 次第
- 構成員名簿・席次表
- 資料1 実証実験の実施結果

■議事要旨

(埼玉大学)

- ・運転の自動化に伴い、路駐車回避等の対応について課題が顕在化するため、関係者と議論を進めていく必要がある。
- ・自動運転サービスは既存バスの代替に留まらず、新たな将来像が描けると良い。

(国際興業)

- ・今回の実証では、駅前広場や埼玉大学構内はODD外となっていた。
- ・要因不足解消を目指し、営業所までの回送や車庫へのバス格納も含め、今後どこまで無人化するか議論をしていきたい。

(西武バス)

- ・利用者に新しい価値をどのように提供するかが課題となるが、自動運転技術の高まりや可能性は大きく感じている。
- ・自動運転化に伴い運転手が不要となるが、遠隔監視員などの追加配置が必要となるため、全体として要員不足を解決できる方法を検証する必要がある。
- ・利便性向上により運賃収入が増加し、バス事業者として諸経費を工面できる体制を構築できれば、実現可能なロードマップを検討することができる。

(A-Drive)

- ・アンケート結果やバス事業者の意見を車両メーカーに共有し、車両の開発に反映する必要がある。
- ・車両の量産化によりコストを低減しなければ運賃収入だけでは事業性が確保できず、持続可能な体制の構築には到達しない。
- ・当該路線は自転車交通量が多く、自転車との共存が技術的課題となっていることから、システムベンダーや車両メーカーと連携しながら社会実装を目指したい。

(アイサンテクノロジー)

- ・運転手の安全配慮による手動介入を除けば、現時点で技術的には約95%の自動運転化率が達成できると考えている。
- ・ソフトウェア性能向上により自転車追従や路駐車回避等是对应可能であり、完全自動運転は実現できると思われる。
- ・緊急車両回避や事故対応として、インフラ連携や社会受容性の向上等を図る必要があるため、引き続き行政とコミュニケーションを図りながら議論を深めていきたい。

(経済産業省 関東経済産業局)

- ・運賃収入だけでは社会実装は難しいと想定されるため、新たな価値創出やまちを周遊させる仕掛けづくり等、まちづくり全体としての検討が重要。
- ・当省のビジネスモデル検討の知見を踏まえ、引き続き支援していきたい。

(総務省 関東総合通信局)

- ・本実証の試乗会では、自転車追い越しやバス停接近時に手動介入があったため、引き続き精度向上を図っていただきたい。
- ・L4 認可を取得している先行事例等を参考にすると良い。

(国土交通省 関東運輸局)

- ・L4 無人運転の最終目標は不変と思われるが、まずは今年度実証の検証結果をどのようにフィードバックするか考えていただきたい。
- ・L4 実装に向けて、安全最優先で着実に事業を進めていただきたい。

(さいたま市 都市局)

- ・初期費用や運行経費等、行政として支援が必要であると考えている。
- ・L4 実装に向けて、事故時の責任の所在等課題も多いが、関係機関と連携しながら解決を図っていきたいと考えているため、引き続きご協力・ご支援いただきたい。